

がんばっています!

No.58

「じいちゃんのように…」

佐藤 拓矢 さん (木島地区・天神堂)



2022年に家業に就農した拓矢さんは、ご両親とともに150アールほどの面積で水稲、野菜、果樹を栽培しています。拓矢さんは主に、果樹栽培と販売業務を担当しています。

Q 何を栽培していますか？
A 果樹では、モモとリンゴがメインです。

Q 1日の仕事内容は？

A 基本的な日常として、毎日、午前2時間ほど、午後にも2時間ほどを目安に、しっかりと集中して取り組むことができる時間だけ、外での農作業を行い、それ以外は自由時間として、家事や農業事務や趣味などして過ごすことを心がけています。

Q 農業を始めて良かったこと
A 農業が性に合っているなと自身で思っていることです。

Q 大変なこと

A 極論ですが、全てが大変だと感じます。気象や環境による影響、社会情勢による資材や燃料など経費の高騰、農業政策や販売情勢への対応など、言い出したらキリがないです。しかし、それをなんとかしていくのが面白いし、やりがいがあるなと感じています。栽培品目を変えたり、品目構成を考え直したり、栽培方法を工夫してみたり、販売戦略を見直してみたり、経費削減のため自転車で畑に通ってみたり。なんとかする方策を考えても実行してみてもやはりキリがないので大変です。

Q 今後目指すこと

A 目標はじいちゃんです。家のリフォームをした時、千円札と五千札と二万円札



大きなモモの甘い香りに包まれて



おいしくなるように研究の日々

が輪ゴムでまとめられているグシャグシャの札束を「どうだ！」と見せてきたじいちゃんが強烈に記憶に残っています。「俺もそういうのやりたくないあ」と思うので、一番の目標にしてがんばっています。

少しずつですが、木島地区は新規の農業者が増えています。他の地区には負けない農業者になるように、協力していきたいと思っています。(西條亀美夫)

あしあと 3・4月の活動記録

- 3月 9日 農業委員会役員会
- 28日 3月農業委員会総会
- 〃 情報委員会
- 4月 9日 農業委員会役員会
- 27日 4月農業委員会総会
- 〃 学習会

あぜ道だより



常盤地区
農地利用最適化推進委員
福澤 千鶴

令和元年に早期退職するまで、30年余りNOSAI(長野県農業共済組合)に勤務していました。自然災害等発生した時は、被害状況を確認するため、現場の調査をしました。岳北管内は稲作が中心の地域のため、台風等による風水害(倒伏・浸水等)が被害の大半を占めていましたが、平成5年、未曾有の大冷害では、管内全域で発育不良となりました。特に山間地では収穫不能の田んぼも多く、各地区の区長さん方にも協力をお願いし、何日も調査にあたりました。

Q 山間地の小さな田んぼを守り続け、手間をかけて米作りをしている役員さんから見れば、大型機械で効率よく作業ができるのに、基本的な管理ができていないことに、納得がいかなくなりました。今でも耳の痛い、印象的な一言として心に残っています。

しばらくして長野支所へ異動になりました。水稲に関しては、戸隠・鬼無里等山間地に獣害が多く、軽トラックでもギリギリの山道を被害調査に行きました。山奥の小さな田んぼまで防護網や電柵が設置されており、農家の皆さんの努力に頭の下がる思いでした。

農地パトロールで調査していると、以前に比べ荒廃地が増えていることを実感します。再生する事はハードルが高いですが、残された農地を守り続けていくことの大切さを、農業委員会の一員となり改めて感じました。気候変動により、干ばつ・高温障害など以前とは違う災害が心配されますが、一年に一度しかできない米作りを、大切に続けていきたいと思えます。

新規就農者の情報交換会を開催しました!



3月18日、就農して概ね10年以内の農業者の交流の場として「新規就農者情報交換会」が開催され、19名の就農者の皆さんと農業委員等18名が参加し情報交換会が開催されました。

新規就農者を支援し、飯山市内で農業を営む方々の親睦を深めていただくことを目的とし、第一部では長谷川戦略マーケティング研究所長を講師にお迎えし、令和2～6年に就農された4名3組のパネラーとトークセッションが行われました。

自己紹介の後、就農してから現在までの苦労ややりがい、悩みや喜びなどについて意見交換が行われました。また、今後の課題・展望などをテーマとし、飯山市に暮らして感じていること等について、情報交換が行われました。就農者の皆さんは、個々の経営内容は違っても、身近な人に相談したり指導会等に出席した

りしながら創意工夫をし、農産物の栽培販売戦略などを実践しているとの事でした。

今後も高齢化に伴う担い手不足解消に向け、後継者の親元就農、定年帰農などの課題を含め新規就農者情報交換会等の必要性を感じました。

最後に講師の長谷川所長は、市内で「尊農上位」※の意識を高めて飯山市の魅力と一緒に発信していきたいと話されました。(情報委員 武田一清)

※「尊農上位」・・・農業の重要性を認識し、農業や農家を社会の上位(尊い存在)として多面的な価値や重要性を認識し行動すること(長谷川所長オリジナル)